大洲高校人権だより

令和５年１１月号

１１月１０日（金)、愛媛県内を中心に活躍されているシンガーソングライター繁桝義一さんをお迎えし、コンサートを兼ねた講演会を実施しました。繁桝さんは、昨年度まで本校で地歴・公民科の教員として教鞭をとられており、半年ぶりの来校に、生徒、教職員から熱い歓迎を受けての講演となりました。

生徒たちの感想をご紹介します。

私は、コンサートを聞いて今までの考え方が大きく変わりました。

今までは、人権の大切さや差別の悪さを抽象的に思うだけだったけど、今回のコンサートで１つ１つの具体的な例を言葉と歌で知ることができました。

中でも一番心に残ったのは、認知症になっても夫を想い続ける女性の話で、自分の子供や自分の名前さえも忘れても夫のことは忘れず、昔待っていた場所で待ち続けるという歌詞に感動しました。認知症で物事を忘れていく中でも、亡くなった夫を一途に想い続けるのは本当に凄いと思うし、それだけ人を愛せるのはかっこいいなと思いました。

今回のコンサートを聞いて、今までに参加してきた人権集会とはまた違った伝わり方でした。歌でここまで人の心を動かせる繁桝さんは本当に尊敬するし、本当に聞けて良かったです。

これからは色々な場面で人権が存在していることを理解し、言動や行動を考え、相手と共生するようにしていきたいです。

今まで、人権・同和教育を受けてきたので、それなりの知識と考えを持って臨んだ今回の講演会でしたが、「人権」というものは何なのかを言葉や歌で改めて深く学ぶことができました。

昨年度まで大洲高校にいらっしゃった先生の講演だったのでいつも以上に話が入ってきやすくて、一つ一つの言葉の意味が全部ストレートに伝わってきました。世界にはたくさんの差別や人権侵害が存在していて、その多くについてお話をしてもらい、実体験や実際におきた出来事を踏まえながら聞けたので、すごく学びのある時間になりました。藤樹学（心学）は、人権にも深く関係していることを知り、藤樹先生にゆかりのある大洲高校で学べていることがすごくうれしかったです。

「100 人いたら 100 人に好かれようとしなくていい。10 人応援してくれる人がいるなら、その 10 人のために頑張ればいい。」この言葉を聞くのは、今回が初めてではなかったけど、高校生になった今改めて聞くと、より一層言葉の意味をしっかりとらえることができ、とても心に残りました。私は、たくさんの人にとっての“10 人”の中に入って、お互いに頑張る理由になれるように過ごしていきたいです。時には、しんどいこととかきついこともあるけど、1 人じゃないことを忘れずに頑張っていきたいです。

“ことほぎの心”日々喜び、命を与えられていることを祝う気持ちを忘れずに、日々の小さな喜びを大切に思い、それを励みに、勉学、部活動を今よりもっと一生懸命頑張っていきたいです。

「ことほぎの心」は、本当に美しい言葉だと感じました。私たちが生を与えられ、この地球に存在していることは奇跡で、日々を大切にし、自分の人生を歩みたいと思いました。人権は、皆人に平等に与えられた権利です。お話の中で権利の「利」は、「理」にすべきではないかとおっしゃっていました。誰かが利益を得るためではなく、必ずあるべき道理の中に、「人権」はなくてはならないと思います。

私が「差別」を身近に感じたのは、新型コロナウイルス感染症が流行を始めた初期のことです。未知のウイルスに対する恐怖から、感染者を差別するような噂や偏見が生まれていきました。やはり、知らない、分からないということは、人間の言動を混乱させてしまうのだと思います。しかし噂や偏見に惑わされず、自分の意志をしっかり持っていることが大切であるし、私も意志の強い人になりたいです。

様々な人権侵害について考えさせられて、今、最も心の中に残っていることは、戦争です。ウクライナとロシアや西アジアの国々で、今残酷な戦争、虐殺が行われています。国家は国民を守らなければならないのに、それができない状況に置かれています。私にできることはありません。しかし、この残虐な事態を正しい知識でしることはできます。戦争を許せない大人が増えていけば、残酷な行いを減らしていけると思います。

私はこれから進学し、社会に出ていきます。その中で、差別に遭遇したときに、しっかりと自分の意見を伝えられる人間になりたいと思います。